

応用生態工学会 第2回テキスト勉強会 札幌開催

－ 河道内氾濫原の保全と再生 －

応用生態工学会では、令和元年9月に応用生態工学会テキスト「河道内氾濫原の保全と再生」を刊行しました。つきましては、このテキストを用いた勉強会を開催し、多くの方々にテキストの活用を図っていただきたいと考えています。

講師（執筆者）の方々からはテキストの内容の解説のほか、関連する話題や現在の研究内容、最近気になっていること等々についてもお話しいたします。

日時：令和2年12月10日（木） 13:30～17:30

場所：札幌教育文化会館 4F 講堂（札幌市中央区北1条西13丁目）

定員：会場定員60名、Zoom ウェビナー定員200名

参加費：無料

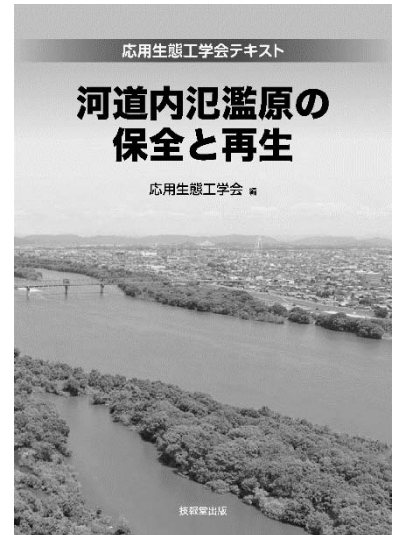
講師：中村 太士（北海道大学大学院農学研究院）

根岸 淳二郎（北海道大学地球大学院地球環境科学研究院）

永山 滋也（岐阜大学地域環境変動適応研究センター）

石山 信雄（北海道立総合研究機構・林業試験場）

三浦 一輝（斜里町立知床博物館）



その他・応用生態工学会テキスト「河道内氾濫原の保全と再生」を持参ください。

勉強会参加者は、割引価格3,100円（税込み）で購入できます。（購入いただかなくても参加できます）

- ・土木学会 CPD 認定プログラム（オンライン参加者にも受講証明書を発行します）
- ・会場は、156席のところ60名の募集とします。マスク着用等、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策にご協力ください。
- ・オンライン（Zoom ウェビナー）については、参加要項をあらためてお知らせします。



プログラム ※各質疑応答含む

2020年12月10日（木）

13:00～13:30 受付

13:30～15:00 テキストの説明[全般]（根岸淳二郎・永山滋也）

15:00～15:15 休憩

15:15～15:45 氾濫原依存淡水魚種の現状[コラム4] ほか（三浦一輝）

15:45～16:15 流路網が代替する後背湿地の連結性[コラム5] ほか（石山信雄）

16:15～16:30 休憩

16:30～17:30 保全と再生の実践 札内川の事例[4.2 日本国内における事例] ほか（中村太士）

参加申込み：グーグルフォーム <https://forms.gle/MexLsaYTaoe5uYPo8>

または、sapporo.nakamuraken@gmail.com

応用生態工学会 HP に案内チラシ PDF、申込みアドレスあります。 <https://www.ecesj.com/>

①お名前、②所属、③e-mail、④参加型式：会場 or Zoom、⑤テキストの購入有無

締切り12月4日（金） 定員になり次第締め切ります

主催：応用生態工学会札幌 共催：応用生態工学会テキスト刊行委員会、北海道大学大学院森林生態系管理学研究室

応用生態工学会テキスト

河道内氾濫原の保全と再生

『河道内氾濫原の保全と再生』は応用生態工学会で企画したテキストとして記念すべき初号となりました。まず、本テキストの刊行にあたって多大なるご協力をいただいた執筆者の皆様はもちろん、テキストの性格、構成、体裁等について数多くのアドバイスをいただいた「テキスト刊行委員会」の皆様にも深く謝意を表します。河道内氾濫原は、堤内地の氾濫原の人工的利用が進むなか、日本国内においては残された貴重な氾濫原環境となりつつあります。しかし、近年の高水敷の乾燥化等で氾濫原に依存する多くの種が絶滅の危機に瀕しています。また、河積確保の観点から、河道掘削や樹木伐開が全国で進みつつあり、河道内氾濫原の人為的改変が進んでいます。『河道内氾濫原の保全と再生』はこのような状況を背景とし、氾濫原環境の基礎的な知識の習得に加え、保全・再生に関するいくつかのアプローチ、事例等を収録しました。

『河道内氾濫原の保全と再生』は4章構成であり、基礎編と実践編に分かれています。1章と2章は基礎的な知識を網羅しています。1章では「氾濫原の定義と生態的機能」と題して、河道内に限らず氾

濫原の定義と生態的機能に関する基礎的な知識を網羅しました。2章は「劣化する河道内氾濫原」を扱っています。氾濫原そのものが日本の国土形成史の中でどのように変貌を遂げたのか、また、河道内氾濫原の劣化要因と劣化した結果として生じたいくつかの現象を解説しています。3章と4章は実践的な内容としました。3章は「河道内氾濫原の保全と再生」とし、河道内氾濫原を保全・再生する具体的な手法について、河道掘削のような現実の事業も絡め解説しました。また、4章では「保全・再生の実践」として、海外・日本における河道内氾濫原の再生事例を紹介しています。また、関連するコラムの充実も図りました。特に、氾濫原に依存する生物の生態や現状については主要分類群を対象にして基本的な知識を網羅しました。

本テキストが大学・大学院の学生だけでなく、行政、コンサルタント等の実務者の皆様に活用され、豊かな氾濫原環境の保全につながれば幸いです。

(『河道内氾濫原の保全と再生』について)

主要目次

第1章 氾濫原の定義と生態的機能

- | | |
|------------------|------------------------|
| 1.1 氾濫原の定義 | コラム1 山地部における氾濫原 |
| 1.2 氾濫原の構造と生態的機能 | コラム2 堤外地の構造：高水敷と低水路の定義 |
| 1.3 河道内氾濫原 | コラム3 氾濫原と植物 |

第2章 劣化する河道内氾濫原

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 2.1 日本における氾濫原環境の変遷 | コラム4 氾濫原依存淡水魚種の現状 |
| 2.2 流量レジームと土砂レジームの変化 | コラム5 流路網が代替する後背湿地の連結性 |
| 2.3 河道内氾濫原における景観の変遷 | |
| 2.4 河道内氾濫原の機能劣化とその機構 | |

第3章 河道内氾濫原の保全と再生

- | | |
|-----------------|---|
| 3.1 保全・再生の手順 | コラム6 氾濫原環境に成立する植物群落 |
| 3.2 河道内氾濫原の評価方法 | コラム7 保全を図るべき群落を抽出する際の考え方 |
| 3.3 保全・再生の実践 | コラム8 社会資本重点整備計画策定に向けた全国の河川の物理環境調査データの概要 |

第4章 保全と再生の実践

- | | |
|----------------|----------------------|
| 4.1 諸外国における事例 | コラム9 扇状地氾濫原に生息する鳥類 |
| 4.2 日本国内における事例 | コラム10 イタセンバラと二枚貝 |
| | コラム11 日本の河原に生息する陸生昆虫 |